

ISDB（国際独立医薬品情報誌協会）総会報告

9月19～21日の3日間、クロアチア共和国の南端、アドリア海に面した美しい歴史的都市ドブロブニクで、3年に1度のISDB総会があり、本誌からは浜が参加してきました（これまで日本の正会員はTIP誌のみでしたが今回から2つの情報誌となった）。現在ISDBには、世界の35カ国、57の情報誌が正会員、27カ国31の情報誌が準会員として加入しています。本誌と同じく市民と医療関係者双方へ情報提供している正会員にはアメリカのパブリックシテイズンのヘルス・リサーチグループが出版する『悪薬/良薬 Worst Pills, Best Pills』という情報誌があります。

今回会場となったドブロブニク市内では爆撃されたホテルやビルが建設中でしたし、大学の校舎の壁にも砲弾の跡が生々しく残っていました。ヨーロッパでも有数の観光都市である海辺の美しい町とその戦火の跡が対照的でした。

3年間に行ってきた活動（多くの活動がISDBのホームページ <http://www.isdbweb.org> に掲載されている）の報告がありました。特筆すべきこととして、昨年11月に採択された、ISDBパリ宣言「医薬品使用における治療の進歩」(リンク)は何カ国語に翻訳され、ヨーロッパを中心とする医薬品政策、医薬品の規制に対しISDBが厳しい役割を担っていることが示すことができたとの報告がありました（この会議の報告は本誌6号68頁に紹介）。

ISDBでは、市民向けの情報誌作りの重要性が強調されてきており、『薬のチェック』の活動は注目を集めました。各国で今後市民向けの情報誌が誕生するようになっていくと思われませんが、私たちはその先駆けというわけです。

会議ではお互いに厳しく、他の情報誌の記事に対する注文もあり、真剣な議論が展開されました。ある情報誌が断定的に書きすぎていることが問題にされましたが、その一方で、出版情報だけではどうしても偏りがあること、スウェーデンからは、国の審査機関に提出された情報のうち出版されているものは限られており、出版されたデータだけで総合的解析をすることの危険性が強調されました。

今回、ISDB代表にイギリス情報誌の編集長（ジョー・コリア氏）が選ばれ、浜が、TIP誌別府代表と前ISDB代表の推薦を受け委員に選出されました。

SDG 委員会の委員として、3年間、SDG の活動を支えていきたいと覚悟を決めています。(浜)